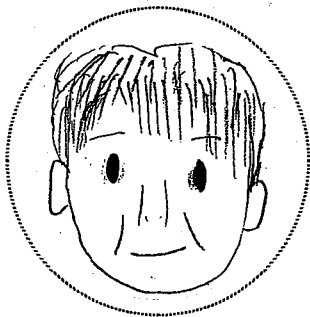


学校だより 希望の鐘

ひとつのぼんぼんはいつしかひらがな!



八戸市立 小中野中学校

平成31年3月9日(土)

No.148 文責：校長
工藤聡

『桃太郎が語る桃太郎』から

まずは、3年生で県立高校を受検した生徒のみなさん、お疲れさまでした。もちろん、最大の関心事は合否だと思います。気になるのは当然のことですし、もしかすると心配で夜も眠れないという人もいるかもしれません。2年前にもこの「希望の鐘」に書きましたが、私も45年前に弘前高校を受検しました。当時は、国語・数学・英語の3教科だったのですが、自己採点(270点くらい)の結果、私の心の中では「合格には280点必要だ。だから絶対に合格できない」という結論にいたりしました。それでどういう行動をとったかという、合格発表までの数日間、学校でも家でも誰とも一切口をきかず、家に帰れば全く食事もとらず(学校では給食は食べていたので、おなかはすきませんでした)、部屋にこもっていました。そういうことが合格につながるのであればいいのですが、私の行動はただ単にふてくされて、周囲に気をつかわせる、まるで幼い駄々っ子のようなものだったと今では恥ずかしく思っています。中学校卒業前の、そして義務教育最後の数日間を台なしにしてしまいました。あれ以降、一度も会っていない同級生もいます。普通に過ごしていれば、輝いていたかもしれない数日が、思い出したくもない記憶となってしまいました。中学生生活の締めくくりとなる卒業式までの数日は、青春の1ページになるかもしれない貴重な4日間です。この小中野中学校を卒業してしまえば、離れてしまう級友や学年の仲間との瞬間を大切にしながら過ごし、いい形で卒業していただきたいと願っています。

さて、ソニーのロボット犬アイボ(aibo)等とならんで、昨年のグッドデザイン賞に輝いた物に「一人称童話シリーズの絵本」があります。普通の絵本は、「そのとき浦島太郎は」とか「シンデレラの本心は」と語られるのですが、それを「そのとき僕は」「私の本心は」と再構成しているようです。おもしろそうだなと思って、市内のいくつかの書店に問い合わせしてみたのですが品切れや入荷待ちで、やっと八戸市郊外の大型商業施設内の書店で見つけました。第一作の『桃太郎が語る桃太郎』の一部は、以下のような内容となっています。(ひらがなは漢字にしてあります。)



鬼ヶ島でぼくたちを待っていたのは、空に届くような、巨大な門!そのあまりの大きさにぼくは背筋が寒くなりました。やがて—ギ、ギ、ギギッ…!不気味な音をたてて、ぼくの目の前でゆっくりと門が二つに開いてゆきます。あの奥にたくさんの赤鬼、青鬼がいるんだ…。ぼくは自分の体が石みたいに固く、固く、こわばっていくのを感じました。門の向こうからどなり声が飛んできて、ぼくの体にぶつかりました。「なんだあ〜!きさまらはあ〜!」そう、あれが赤鬼、青鬼です!頭にはツノ、目はつり上がり、口にキバ。大きな金棒をズッシリとかついでいます!ぼくは刀をぬきました。でもどういうわけか、足が前に動きません。ぼくはいつの間にかふるえていました。ぼくは鬼がこわいと思いました。「桃太郎さん、どうしたの!」犬、猿、キジがこわい鬼たちに立ち向かってゆきました。仲間たちは勇敢でした。ぼくは刀を握り直します。そしておなかに力を入れ叫びました。「やい鬼ども、この桃太郎が相手だ!」こわい気持ちは声と一緒に全部体の中から出ていきました。ぼくは豪快に刀をふるって、バツバツ!暴れる鬼をこらしめたのです。

要約すると、「鬼って巨体。勝てるわけないよ。鬼ヶ島で桃太郎はおじけづくが、それでもお供の犬と猿、キジの勇敢さを見て、遅れて刀を振り上げる…」ということになります。これまでの私達のイメージとは違う、弱気で人間的な桃太郎がとても新鮮に感じられ、共感してしまいます。グッドデザイン賞に輝いたのは、これまでの視点を変えて、「他者の気持ちを感じることが、格好の教材になる」ことが評価されたのだと思います。(絵本は図書室の絵本コーナーにあります。)

3年生は卒業して全員が高校に進学します。そして、いつか必ず社会に出ることになります。その時、“猛烈な競争社会”に否応無し(イヤオウナシ:いいも悪いもかまわず)に放り込まれます。しかし、「自分さえ良ければ」とか「どんな手段を使っても勝てばいい」といった考えでは、長続きしません。私がいつも言っている「謙虚な心」と「感謝の気持ち」こそ、「他者の気持ちをくみとる」ことの土台となり、“猛烈な競争社会”においても、疲弊(ヒヘイ:疲れ弱ること)することなく、最終的には平和に生活できていけるのではないのでしょうか。

